

職員が働きやすい環境を整備し、雇用の定着を図る！

職員がワーク・ライフバランスを意識して、気持ち良く働ける職場を目指し、主に3つの対策を掲げて取り組んでいます。

- ①時間外労働時間数の削減
- ②年次有給休暇取得の促進
- ③ストレスの少ない働き方を支える方策の実施

学校法人東播学院 とうばんの森こども園

2022年4月、とうばんの森から園名を変更します。

加古川市にある定員340名の幼保連携型認定こども園です。自然に囲まれた広々とした環境の中、「豊かな体験や自由遊びを通して、こども達の生きる力を育みたい」という願いを持って教育・保育を行っています。



① 時間外労働時間数を削減する取り組み

- ・クラスを担当しないフリーの職員を配置し、クラス担任の負担を軽減。
- ・早朝、遅残りを担当するパート職員を配置。
- ・園児の登園形態に合わせた1年単位の変形労働時間制を採用。
- ・積極的なICT導入（例：i P a dの活用など）により、事務的な業務を効率化。
- ・時間外労働につながる業務の抑制（例：行事の衣装や舞台の制作、必要以上の飾り付けをしない）。

② 年次有給休暇取得を促進する取り組み

- ・年度初めに年次有給休暇の付与日数の半分程度の取得予定をあらかじめ取得計画表で把握。
- ・園の夏休みと冬休みには連続休暇を取得。
- ・半日単位と時間単位での年次有給休暇の取得が可能。
- ・担任が年次有給休暇を取得した場合には、フリーの職員が代替。
- ・個人別の年次有給休暇取得状況をオンライン上で管理。

③ ストレスの少ない働き方を支える取り組み

- ・年2回、個人面談を行い業務の振り返り、悩み事の相談、業務上のアドバイス等を実施。
- ・産休と育休中の職員には、面談を行い、復帰後の勤務形態等について話し合う。
- ・3歳未満の子どものいる職員には、業務の負担を減らすため、早出、遅残りの当番を免除。
- ・休憩時間は、子供が居ない部屋でゆったりとリラックスして休憩。
- ・長時間労働の抑止のため、勤務間インターバル制度（終業後11時間の設定）の導入。
- ・子供の怪我、体調不良に対処するため、専門の看護師を校内に配置。
- ・立地条件の問題から、広い駐車場を確保し、自動車通勤を認めている。

取り組みの成果

- ・月平均時間外労働（正規職員一人当たり）
2018年度 1時間14分 2019年度 1時間28分 2020年度 1時間20分
- ・年次有給休暇取得率（非常勤職員含む）
2018年度 70% 2019年度 69% 2020年度 92%
- ・離職率
2018年度 8% 2019年度 5% 2020年度 6%

職員の声

2人目の子どもを出産し、育休後2021年1月に職場復帰しました。復帰前に園長先生と話し合い、勤務時間を調整して頂き、自分の子ども達と一緒に出勤、退社する毎日です。残業もなく家庭の用事や子育ての時間を確保して、大好きな保育の仕事を継続できることに感謝しています。

（入社15年目、職員A）



園の周辺を散歩



園の畑で芋掘り

子ども達は、たくさんの経験を通して、「コミュニケーション能力」「自分で問題を解決する力」「やりぬく力」を身に付けます。

職員は、子ども達一人ひとりを大切に、個々のペースでの成長を促します。

学校法人東播学院のプロフィール
設立：1979年（昭和54年）
所在地：加古川市東神吉町出河原551
事業内容：とうばんの森こども園
職員数：71名（令和3年11月）
HP: <https://www.toban.ed.jp/>